



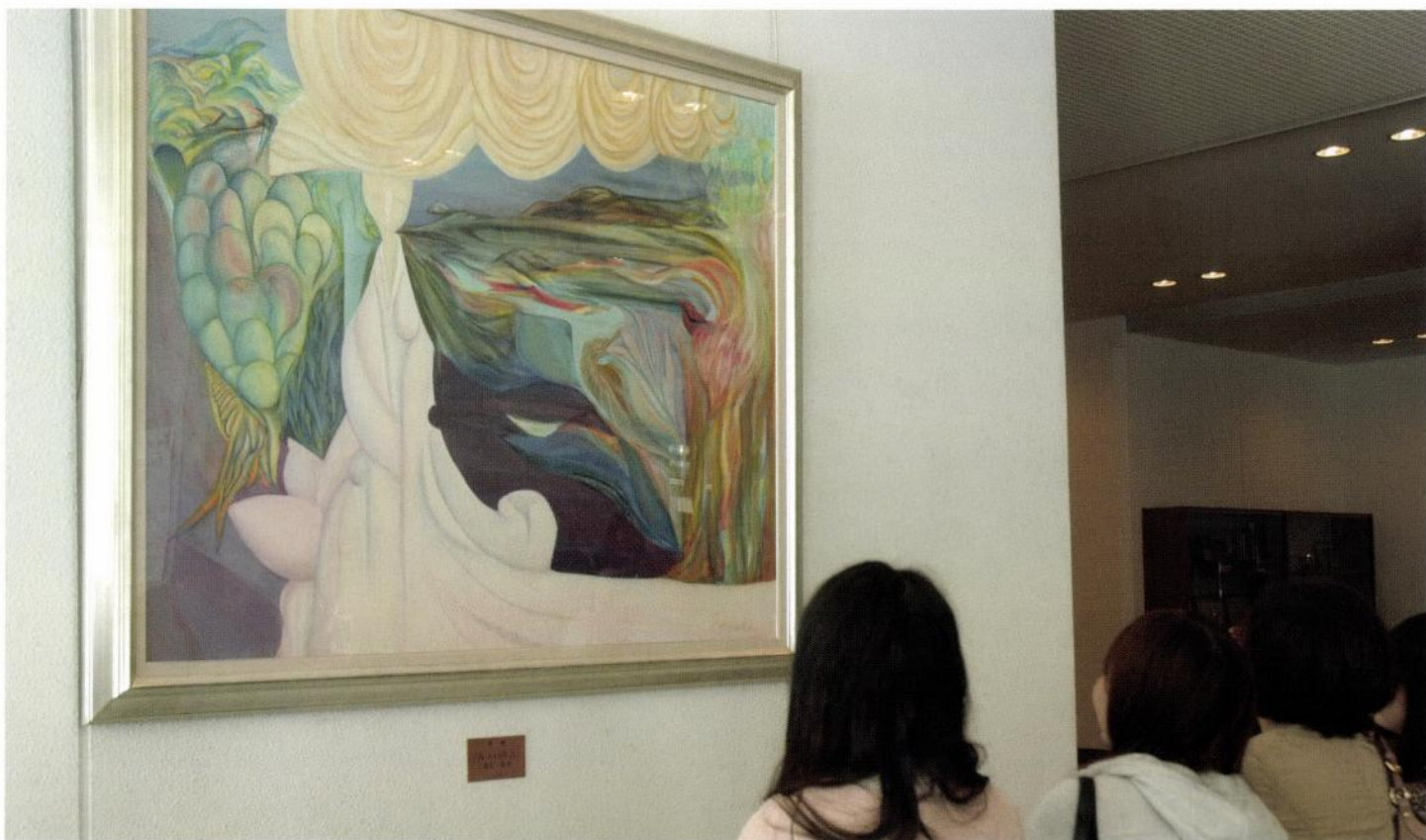
FŪ

EN

楓園

CONTENTS

- | | |
|---|--------------------|
| 1 — 特集 学長対談「創造性を求めて」
— 桐朋学園大学学長 堤 剛先生と語る — | 10 — 行事報告 6月～8月 |
| 5 — 大学 大学院 NEWS | 11 — この人に聞く 俣野尚子 |
| 7 — 中高部 NEWS | 12 — 聖書の言葉・英和探訪 |
| 8 — 小学部 NEWS | 13 — 学院NEWS・史料室レター |
| 9 — 東洋英和幼稚園NEWS・かえで幼稚園NEWS | 15 — 英和の植物通信・お知らせ |



■ 大学「KIORA」 邊見穂香 画

国際社会学部3年邊見穂香さんより第93回二科展入選作品「KIORA」が大学に寄贈され、5号館に飾られました。今年の第95回二科展に4度目の入選を果たし、第64回女流画家展にも入選しました。大学案内の「学生ブック」にも素敵なイラストを描いています。

学長対談

「創造性を求めて」

今回の学長対談は、桐朋学園大学学長の堤 剛先生をお迎えしました。世界的なチェリストとしても活躍されている先生から、音楽を通じての教育観、社会貢献などについて示唆に富んだお話を頂戴いたしました。

桐朋学園大学学長

堤 剛

東洋英和女学院大学学長・副院長 村上 陽一郎

信じて祈るならば、

求めるものは何でも得られる。

マタイによる福音書

二一章二二節

チャレンジを与えられることは感謝すべきこと

村上 今、私が驚嘆しているのは、堤先生は学長職という激職でいらして、かつチェリストとして現役でいらして、しかも新しい曲を次々とステージにお乗せになっていることです。

堤 バッハ、ベートーベンは生涯にわたって勉強できるものですが、新曲への挑戦は、やはり現代に生きていてレゾンデートル（存在意義）みたいなこともありますし、村上先生もチェロをお弾きになるのでわかりでしょうけれども、まだまだチェロという楽器に可能性がある気がします。亡くなったチェリストのロス

の？」と聞かれるぐらいです。桐朋の学長になる時にも「一つ忘れてはいけないことは、お前はあくまでもチェリストだ。どんなに忙しくてもチェリストであることが基本だ」とはっきり言われました。そういうことで、忙しいですが先生の言葉は忘れたくないな、と思っています。

音楽家にとつてのリベラルアーツ教育

トロポーヴィチはチャレンジを与えられることによってチェロのレパトリーの領域も広がっていくし、表現の幅が広がる、これはチェリストにとつてありがたいことで、感謝しなければならぬこと、と言われたことがありました。私が師事した

村上 ご自分のご意志だったのですね。堤 最初は、あまりにも年少だったので齋藤秀雄先生に一年間チェロだけを教えていただき、一年経ってから、桐朋の「子供のための音楽教室」にも行くようになりました。その後、一五歳で第二六回音楽コンクールのチェロ



ヤーンシユ・シユタルケル先生もいつも新しい曲に取り組んでいかなければいけないという姿勢をお持ちでしたし、お会いするたびに「今、どんな新しい曲を弾いている

の？」と聞かれるぐらいです。桐朋の学長になる時にも「一つ忘れてはいけないことは、お前はあくまでもチェリストだ。どんなに忙しくてもチェリストであることが基本だ」とはっきり言われました。そういうことで、忙しいですが先生の言葉は忘れたくないな、と思っています。

「創造性を求めて」

堤 剛 (つづみ つよし)

1942年生まれ。故 齋藤秀雄にチェロを学ぶ。フルブライト給費生としてアメリカ・インディアナ大学に留学しヤーノシュ・シュタルケルに師事。カザルス国際コンクール第一位に入賞、内外での本格的な演奏活動が始まる。日本芸術院賞など受賞多数。カナダの西オンタリオ大学、イリノイ大学、インディアナ大学の教授を歴任。2004年4月に桐朋学園大学学長就任。サントリーホール館長。2009年11月紫綬褒章受章、2009年12月日本芸術院会員に選出。



部門で第一位および特賞を受賞、一九六〇年、NHK交響楽団の欧米旅行に同行し好評をいただきました。

村上 桐朋学園の高校を終えてからアメリカへいらつしやったのですか？

堤 それまでは留学する方は、大体ヨーロッパに行っていたので、まさか自分が留学でアメリカに行くとは思っていませんでした。シユタルケル先生が日本にいらした時、齋藤先生と一緒にリサイタルに行ったのですけれど、先生も大変感心されて、「堤君だったらこの人がいい」とお考えになったのです。齋藤先生が師事したのはフォイアマン先生だったので、シユタルケル先生が目指しているチェリストもフォイアマンで、これは丁度良いということで、私はシユタルケル



村上 陽一郎 (むらかみ よういちろう)
1936年生まれ。東京大学教養学部、大学院で科学史・科学哲学を学ぶ。上智大学理工学部助手、助教授、東大教養学部助教授、教授、同先端科学技術研究センター教授、センター長、国際基督教大学教授、東京理科大学教授を経て、2010年4月現職に就任。著書に、専攻の和洋の学術書のほか『安全学』、『あらためて教養とは』『人間にとって科学とは何か』など。

先生のいるアメリカのインディアナ州ブルーミントンにあるインディアナ大学に行くことになりました。

村上 そこには音楽学部があるのですか？

堤 アメリカの場合はもちろんジュリアードとかの音楽を専らとするコンセルヴァトワールもありますが、ほかの音楽大学は大学の一学部です。私もいわゆる総合大学の学部生でした。

村上 ということは、リベラルアーツ的な科目も取らざるを得ない？

堤 それまでは桐朋という音楽に特化した環境で育ちましたし、例えば一般学科はあっても、先生が手加減してくださったり、ということがあったわけです。ところがインディアナのような総合大学の中で、社会学を取ると、

そこにはいろいろな学生がほかの学部から来ているし、全く音楽学科だからやさしくしてあげるとか、そんなのは全然ない環境なのです。インディアナ大学の音楽学部では「自分達はもちろんあなたをチェリストとして伸ばすけれども、自分達の教育方針は全人教育だ」ということで、一番大事なのは人間としてオールラウンドでなければいけない。やはりいろいろなことを知ってなければいけないし、音楽の中でも「あなたはチェロがうまいからチェロだけ」というのではなく、音楽の歴史も知らなければいけないし、楽理的なことも知らなければいけない、そういうふうにはまず言われた。私は実はその時ちよつとショックだった。それこそ音楽を勉強するためにここに来たのに、いろいろなことを学ばなければいけない、と言われて。当時はとても大変だと思いましたが、でもやはり教育の本質というのはそんなところにあるのかな、と思っています。自分を鍛える意味では大事でした。

「演奏」と「教えること」は車の両輪

堤 留学後二年目の一九六三年に、ミュンヘン国際コンクールで第二位、カザルス国際コンクールで第一位に入賞しました。その頃はそんなに国際コンクールがございませんで、コンクールで上位入賞したりすると結構いろいろな仕事がまわってきまして、ミュンヘンで入賞したらあちこちのドイツの放送局の番組に出させていたいただいて。ある意味で私が国際的に活躍する土台ができました。

村上 それ以後、世界的なチェリストとして今でも活躍なさっている。恩師のシユタルケル先生は、もともとハングリーの方ですよ？

堤 インディアナ大学に招かれるまでシカゴ交響楽団の首席チェロをなさっていました。シユタルケル先生は素晴らしいチェリストなので、どんどん音楽会が増えていき、お休みが多くなりました。たまたま私が二つのコンクールに入賞したこともあったと思うのですが、その年から先生のティーチングアシスタント、TAになりました。それが私のティーチングのキャリアの始まりだったわけですね。

村上 今は学長先生でいらつしやるのですが、演奏することと、教えることは半々くらい大事なことという先生のお考えはすでにインディアナの頃からありでしたか？

堤 そうですね。当時の考え方としては教えるか、演奏に専念するかどっちかという考えが強い時代でした。両方兼ねるということは無理なのではないかと思われていました。でもシユタルケル先生がいつもおっしゃっていたことは、自分はどちらも欠くことは

きない。自分は演奏家としてサクセスフルだし、もちろんそれで食べていく。けれど音楽会にいらっしやる人数は多くて二〇〇〇人だけ。もう一つ自分が目指すのは、次世代に繋げていくということ、やっぱり見極めたいし、そういうものが大事なのではということ、自分にとっては両方ともすごく大事だし、自分の役割は車の両輪の心棒みたいなものだとおっしゃっていたので、私の中にもそれが込み込んでいくのかなと思います。教えるということ、わたしがたどりついた結論のよくなものは、「演奏」と「教えること」は、結局どちらも大変クリエイティブな仕事である。私が若い方にサジェスチョンしたりすると向こうがそれに反応して、それまでなかったようなものを作っていく、それも一つの創造活動なのではないかと思ってます。

社会貢献できる潜在能力を大学で培う

堤 一九六一年にアメリカに行つて以来、カナダの西オンタリオ大学やアメリカのイリノイ大学、そして母校のインディアナ大学で教えてきたので、本格的に日本に帰ってきて、まだ四、五年くらいしか経っていません。ある意味で桐朋学園の学長就任のお話があったから日本に居を移そうと思ったのです。自分にとっては大変な決断でした。

村上 このあいだ作曲家の近藤謙生とお話をする機会があって、大学で音楽の学生を採る意味は何か? ということで、失礼な言い方になるかもしれませんが、学生のマジョリティーは国際的なソリストになるわけではない。そうすると後は音楽の先生を育てるのが主眼、となると結局私立大学の場合は、多くの学生の授業料でこくわずかの国際的なソリストを育てるような意味しかないのか、と言われた時に、近藤さんは「良い聴衆を育てる」というふうにおっしゃったんですね。なるほどな、と思つたのですけれど。そのへんのところで学長先生として何か考えていらっしやることがあれば伺いたいのですが。

堤 需要と供給という関係もあつて確かに皆さんが一線の演奏家になれないけれど、私としては音楽を学ぶことによつて、インディアナ大学での全人教育ではないですが、いろいろな形で社会貢献できるのではないかな、と思つています。ですから逆に私としては自分はソリストとして行くんだ、とかオケでいくんだとか決めてしまわないで、自分の持てる才能をできるだけ活かしてほしい。二年ほど前に娘がアメリカのミルウォォーキーにある美術学校を卒業した時、アメリカという国は経済面とかで全体に自信を失つた時だったんですね。ですからなんとなく、暗いムードで卒業式もいまひとつさえないのかな、と思つて参加したら、御来賓の方の祝辞が非常にポジティブだったんです。何を言われるかというところ、あなた達はいろいろなアートを学んだわけだけれども、あなた達の創造力、クリエイティブ・パワーというのはこれからのアメリカにとつて、一番必要とされるものだ。ここで学んだ結果、会社なり、地域なりで貢献できるという大変な力を持つているのだから、頑張つてやってください」と。学校の役割というのはいわゆるオリジナルな考案方、創造性ですかね、そういうものをどういうふうにしたら出してあげられるかということではないかと思ひます。人の持つている才能は一人ひとり違う。皆さん才能豊かですが、才能の出方が違いますから。一つの芸術をやるということは、自己を発見していくということだと思つたのです。ヴァイオリンを弾くことによつて自分はこのということがあり弱点もあるということを知ることによつて、自分の良さもわかるし、その良さで社会貢献できることになるのでは、という姿勢で私はやつております。

村上 やっぱり桐朋も大学でなければならぬですね。

堤 自分が学長をやっているから言うのではないですが。

村上 大学は先生のお言葉を使えば全人的な教育で学生を育てていって、社会に出た時に必ずしも自分が専門でし

たことができなくてもそれだけの潜在的な能力というものを培っていく。

堤 そうですね。ある意味では良い聴衆になつてくださるでしょうし、本当にそういう意味で社会が豊かになつてくる、という役割を果たせるかと思うのです。

村上 ここは女子大学ですし、本学は教育のすべてが、明確な将来のキャリア・آمーキングとなつていくわけでは無い。例えば臨床心理というコース、あるいは保育のことを専攻する人達にとつてはきちんとしたカリキュラムを組めますし、資格も取れますが、それ以外には人間科学、国際社会、コミュニケーションなどいろいろなかたちで社会貢献ができるような人材を作ろうと思ひます。基本はリベラルアーツであり、もう一方ではある程度の専門性をしっかりと資格取得まで面倒をみる。本当にそういう意味で全人的な教育を、しかし女性という限られた性、人類の半分だけを相手にしていと、これもある意味特殊性があるわけですから、でもそういう意味では今先生がおっしゃつてくださったような教育を目指すということが、私達の東洋英和にとつても共有できることではないかと思ひました。それは音楽であれ、何であれ。

堤 桐朋の女子部門、女子中学・高校に四月から新しい校長先生が就任され、その方が入学式で世阿弥の話をされたりするので。その先生のお話を



聞いていると、女の方というのはこういうものを目指すの良いのではないかとかなにか雰囲気があるんですね。学業をちゃんとするということはものすごく大事ですし、そこで自分がある程度のアチーブメントを成すということとはものすごく大事だけれども、私、

その校長先生のお話を聞いていると、それプラス「夢」、女の方もこういうふうになら素晴らしいな、という「夢」があるんですね。私は音楽学部なので、私どもの仕事ももちろん情動的に世の中を豊かにするということがありますが、私どもの仕事のひとつ

はやはり「夢」を与える、それが音楽の大きな仕事のひとつではないかと思えます。その方が音楽というものをどういうふう将来活かしていくかはその方のチヨイスですけれども、いろんなことを超えた上でみんなが出会った時に、「夢」や「希望」といった次元で一緒に出会える、そういう世の中になったらいいなと思っています。

村上 ありがとうございます。いいお話を聞かしていただいたと思います。

演奏家である前に

人間として

日頃演奏家としてはもちろん、人間として、尊敬措く能わざる堤学長と、お話をする機会を戴いたことが大変嬉しく思いました。かつて、堤氏の父上が、「練習の鬼だ」とご子息を評されたことがあるのですが、親というものは、わが子に飽き足りない想いをするのが常なのに、親をしてそう言わしめるほどの努力を重ねたからこそ、今日の堤氏があると云えましょう。

この対談でもおわりの通り、決してそういう努力などをひけらかすお人柄ではないのですが、新しい曲に取り組むときにも、必ず暗譜をしてステージに出されるのも、功成り名遂げた今日でさえ、日頃凄まじいご努力を積み重ねておられることの証であるとも申せましょう。対談のなかでもありましたように、後進を育てる教育者としては、そうしたご自身の姿を見せることで、会得を求める姿勢をとっておられることにも感銘を受けました。

同世代人口なら、数字の上では全入が可能になりつつある日本の社会において、大学の果たすべき役割が、大きく変わろうとしています。一体

何が大学に求められるのか、という点が、一律ではなくなっているのです。しばしば言われる「大学の機能分化」ということも、簡単に言えば、どのような役割を社会のなかで果たそうとするのか、その旗印を明確にせよ、ということになると思います。

しかし、同時に、大学と名乗る以上、失ってはいけない普遍的な意義もあるはずですが。その一つが、堤学長が強調なさる「創造性」の涵養でしょう。人間に対する豊かな理解の上に立って、新たな夢を造りだし、そこに向かって挑戦するような力を備えた人間の育成こそ、芸術であれ、学問であれ、大学である限り、目指さなければならぬ普遍的な課題であると思えます。

東洋英和女学院大学がモットーに掲げている「専門性とリベラルアーツ」は、まさしくその課題への挑戦を意味していると思います。深く、広く学ぶことを通じて、他者との違いを識り、自我との対話によって、新たな境地へと歩を進める、その課題の難しさと、意義とを改めて考える貴重な時間でした。

村上陽一郎

メディア・コミュニケーション研究所設立シンポジウム

「ドキュメンタリーの世界」について討論

東洋英和女学院大学のメディア・コミュニケーション研究所在シンポジウムが九月二五日、横浜校地で開かれた。「記録映像の世界と人々」というテーマで、岩波書店刊行の「シリーズ 日本のドキュメンタリー」を題材に三人の専門家が活発にユニークな意見を交わし、本学五号館の会場は熱気に包まれた討論の場になった。

基調講演で映画評論家の佐藤忠男氏は、第二次大戦前の言論弾圧で日本の映画人たちが国策映画のドキュメンタリーでも現実の矛盾を反映させようと苦心した歴史を説明した。

続いて、「日本のドキュメンタリー」で取り上げられた作品三本を鑑賞した。上映されたのは、戦時中に軍需工場で働く女学生の姿を伝えた「わたしたちはこんなに働いている」（一九四五年）、戦後の社会教育映画「母子手帳」（一九四九年）、女性たち

のサークル活動と政治的自覚を追跡した「町の政治 べんきょうするお母さん」（一九五七年）。戦後貧困にあえいだ日本の育児の様子や家庭の映像には、会場から驚きの声が上がっていた。

パネル・デイスカッションに移り、佐藤氏、映像ジャーナリストの熊谷博子氏、放送作家の石井彰氏がドキュメンタリーへの思いを述べ合った。佐藤氏は「ジャーナリズムの世界はドキュメンタリーによって問題提起の幅が広がった」と指摘した。熊谷氏は自らのドキュメンタリー制作の体験を踏まえ、「取材対象者も含め共同作業していくなかで、製作者の自分も変わらな」とドキュメンタリーは「つくれない」と語った。石井氏はテレビのドキュメンタリー制作の意義を強調。「直接ニュースにはならない問題をすくい上げる。社会的に発言できない人の声を伝える」姿勢を評価した。

これに先立つ冒頭の開会あいさつで、村



上陽一郎学長はメディアの役割を様々な視点で考察していく研究所の活動を進める重要性を強調した。今回の催しは参加者約五〇人にとどまったが、今後有意義な研鑽の場をさらに提供していきたい。

（文責 国際社会学部教授 町田幸彦）

文部科学省 平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に選定されました

文部科学省では、平成22年度から、各大学・短期大学において、入学から卒業までの間を通じた全学的かつ体系的な指導を行い、学生の社会的・職業的自立が図られるよう、大学の教育改革の取組を支援する「大学生の就業力育成支援事業」を実施しており、本学の取組が選定されました。

取組名称：「女子就業力」を伸ばす実学的専門教育

なお、全国の国公私立大学から441（大学341 短大83 共同申請17）件の申請があり、180（大学157 短大19 共同申請4）件が選定されています。

ニュース時事能力検定試験1級合格！

〈ニュース時事能力検定試験〉とは、新聞・テレビのニュース報道を読み解く「時事力」を、1級から5級の5段階に分けて認定する検定試験です。本学では、すべての学生に受検を推奨しています。1級検定に合格した峯尾香菜さんの体験をご紹介します。

ニュース検定受検のきっかけは、もともと興味があった時事問題について自分は何の程度の力があるのか知りたかったからです。2級受検を決めてからは学内の講習会で町田幸彦先生のご指導をいただいたり、問題集やテキストを繰り返し読んだり、テレビのニュースや新聞に普段より注意を払うなどの準備をしました。勉強のペースがつかめず不安もありましたが、無事2級に合格できました。

その後先生のすすめもあり、1級の取得に挑戦しました。1級で

は普段私たちが聞くニュースのより深い知識が問われます。2級と同じように先生のご指導や問題集に繰り返し目を通すなどの対策をとりました。実際の試験はとても難しかったため、合格通知を受け取った時はうれしさよりも驚きの方が大きかったです。

ニュース検定受検によって時事問題への知識が深まっただけでなく、複数の事柄を関連づけて考えられるようになりました。世界を見る様々な視点を養うためにも、ニュース検定の受検は役に立つと思います。



国際社会学部では、ワークショップ、アナウンス、記事ライティングなど、体験型授業も行っています



峯尾香菜さん
（国際社会学部 国際社会学科3年）

交換留学生紹介 タイから日本へ留学して

国際社会学部国際社会学科 タネーサコーン・サンチュター

私はタイのチュラロンコーン大学文学部日本語学科からの留学生です。今年の4月に日本に来ました。元々は日本のメディアや日本の文化に興味を持っていたので、日本に留学ができて、大変うれしく思います。母国以外の所に長く過ごした事があまりない私は、最初は日本でうまく過ごせるか心配しました。しかし、東洋英和に



東洋英和の学生さん達ははじめ皆さんがたたく留学生活をサポートしてくれています

来て、国際交流センターのスタッフさん達、日本人の学生さん達、そして先生方のおかげで、日本で楽しく居心地よく過ごすことができました。スタッフさん達は留学生の私の面倒を一生懸命見てくれる上、日本人の学生さん達も友達になってくれます。先生方も何か問題がある時に、ちゃんと相談に乗ってくれますので、自分は一人ぼっちではない気持ちを与えてくれました。だから、安心して、居心地よく過ごすことができました。東洋英和の皆さんは本当に優しいので、東洋英和で交換留学ができて、本当によかったと思います。



タネーサコーン・サンチュターさん
(愛称 プイさん)

映画公開にあたって思うこと

私は5歳の頃、先に事務所に所属していた姉の影響を受けて芸能活動を始めました。学業と女優との両立は、大変な時もあります。良い友人・先生方そして家族に支えられて、好きなことを続けている今の私がいるのだと日々周りの人達に感謝しています。



私が大学進学を選んだ理由は、心理学を学び、専門的知識を身につけて傷ついた心を持つ子どもを救いたいと思ったからです。それと同時に、全く違う人間を演じる時、心理学を学ぶことで演技にも幅が持てるのではないかとも思いました。

今年10月、1年半かけて撮影した「ヘヴンズ ストーリー」という映画が公開になりました。家族を殺され、

孤独の中で人を憎むことしか知らない女の子が、人とのつながりの中で憎しみから解放されていく。その主役の少女を演じました。自分自身の考え方や社会の見方を変えたこの作品を、一人でも多くの人に見て頂きたいと思います。4時間38分という長編なのですが、きっと何か感じて頂ける作品だと思います。



崔岡 萌希さん

いつも思うのですが、人を恨んだり憎んだりする役を演じるのは、とてもエネルギーのいることです。しかし、ひとつの作品が何人もの人の手によって生まれた時、とても嬉しいです。どのような仕事でも、どのような世界でも、人と人との関わりはとても大切なものです。全ての人に良い出会いをしてほしいです。そして私は、人の記憶に残る女性になりたいと思います。

つるおか もえき
人間科学部人間科学科1年 崔岡 萌希

光と闇のパサージュ

大学院の窓から
人間科学研究科 教授 久保田 まり

初めてフランクフルトの地を訪れたのは、今から十五年前の夏、ドイツへの旅の半ばであった。聳え立つ高層の尖塔は真夏の青空を突き刺していた。近接するガラス張りの高層ビルには真昼の陽ざしが反射し、眩しく乱反射する銀色の物体は、資本主義経済を力強く象徴していた。今夏、旅の終着点として十五年ぶりに訪れたフランクフルトは、さらに増殖した高層ビルの数々が、強く陽ざしを反射し、以前以上に、私は眩惑した。

十五年ぶりの眩惑：しかし、この眩惑は実に身近な所で感じている。麻布十番から鳥居坂へと学院に向かう途中で見上げる六本木ヒルズ（森タワー）、ブルーグレイの巨大なプリズムは、太陽光を分散し、反射し、見上げる私をいつも眩惑させる。しかし、フランクフルトの無機質なオフィスビルとは違い、ヒルズは界限に広がるレジデンス、立ち並ぶショップ、ガレリアなど、複合的な近代都市空間を演出している。二十世紀初頭、パリのパサージュに魅せられたベンヤミンが、ヒルズや、そしてミッドタウンを訪れたら、一体何を思うだろう。ベンヤミンにとってパサージュは「集団の夢の家」であり、そこを遊歩する人々にとつての陶酔的な小宇宙であり、ユートピアであるという。しかし、同時に、そこは移ろいやすく、儂く、また、氾濫する商品の陳列に、ベンヤミンは資本主義消費社会の末路を予感してもいた。

以前も今夏も、フランクフルトの駅界隈でうつろな目をした浮浪者を多数見かけた。同様に、深夜の六本木は昼間の姿から大きく変貌するだろう。光あるところには、必ず影が、闇が潜んでいる。その意味で、六本木の地は、現代社会と人間存在の光と影を複眼的に相対視できる、アクチュアルな学問のフィールドであることを、今夏、改めて自覚した。



Mexican and American Students Experience Life at Toyo Eiwa

今年度は高二に4月から2月までメキシコからAFSの留学生パウラ・エスキнкаさん、中間試験後から夏休み前までアメリカからガルシア先生の姪御さんのジェシカ・ガルシアさん、そして高一にはアメリカのカリフォルニア州からYFUの短期留学生のレイナ・ウェルホーグさんが来て、学校生活を共にすることになりました。

同じ学校に異文化の中で育った友人を持つということは、東洋英和の中高生にとってとても貴重な経験だと思います。どれだけ積極的に関われるかは各人にかかっています。臆することなく、困っているときには助け、尋ねたいことは尋ねるという態度を身につけてほしいものです。

Jessica Garcia from America

My Name is Jessica Garcia and I have been going to Toyo Eiwa Jogakuin High School for four weeks, I will be in Japan for 6 weeks. I am here not only because it is a great experience but also because my uncle Mr. Garcia is an English teacher at Toyo Eiwa. I am from Minnesota (USA) and I just graduated from high school, four days before I came to Japan. When I get home I will be going to university. My flight to Japan was 12 hours. It is the longest flight I've ever been on. I had jet lag the first couple days and I was really tired. I got here on a Friday, then on Saturday I went to school to get my uniform. I was really nervous to go to school because I do not know any Japanese and because it is an all girls' school.



I say that because I hope to learn Japanese and in America girls are not very nice to each other most of the time. I was expecting all the girls to not like me or think I'm weird. Soon I found out that all the girls at school were really nice and really excited to talk to me. I was also expecting the school to be just like high school at home, but it's very different. Some things that are really different are that we spend a lot of time in homeroom also in general spend a lot more time at school. There are six classes in a day and for my last year of high school I only had three classes and we only have homeroom for 15 minutes and it's in the middle of the day. That's only two things that are different. There are so many more things that are different but I don't know what I was really expecting. Japan is very different from America. I really like Japan and I hope to come back and visit. I am making friends that I will try to keep in touch with.

This has been a lot of fun and I have made memories here that I will never forget.

Rana Verhoog from America

Hiking up the seventy- two stairs to my homeroom class in senior 1-4 with my host mom, Mariko on the first day of school was both exciting and nerve-racking for me at the same time. I wasn't sure if in the short three weeks I would be at Toyo Eiwa that I could make any actual friends or be able to have fun with the girls. But as soon as I sat down in my desk in the far left side of the classroom and the screaming girls began to pour in, I knew it was going to be a good day! I got lots of attention, which I attribute to my blonde hair and green eyes, and I was able to make many friends really fast. For the next three weeks I ate lunch with different girls everyday and enjoyed helping them with their English, which to my surprise was always very good! I made many friends, and I'm really excited to go to all the places I've been invited to and start to experience Japan in a new way. The teachers at Toyo Eiwa were always very kind and I had a great time using hand signals to try speaking with them. I'm sorry if I slept in your class! I just want to say thank you to everyone who talked to me and made me feel truly accepted. I loved Toyo Eiwa and I'm going to miss you all. Thank you for everything!



Love,
Rana Verhoog



Rana Verhoog

Paula Esquinca

Jessica Garcia

Paula Esquinca from Mexico

I chose to go on an intercultural interchange in order to learn lots of things, a new language and a new culture, so I decided to come to Japan, because I really love Japanese and I wanted to speak it.

The experience of living in a completely different country with a completely different people and culture is really a big challenge but I can say that everything has been going well here, my host school Toyo Eiwa is so much fun, and I have been learning a lot of Japanese in school, with my friends. Sometimes I do not understand the way of talking, I am always asking "Why is this thing like this?" and it is really interesting the fact of learning a new language, even though I know two languages which are Spanish and English, I am always discovering new ways of talking in each one.



キャンプくさんぽ

年長組は、毎年七月の上旬に軽井沢の追分寮で二泊三日のキャンプ生活を体験します。

一学期の終わりの時期に行われるキャンプは、子ども達の幼稚園生活の延長線上にあります。そこで、子ども達が幼稚園で楽しんできた遊びや絵本の話などが、キャンプ生活のモチーフとなつて何らかの形で登場することがよくあります。

今年には『たんたのたんけん』（中川李枝子作、山脇百合子絵、学研）の物語を子ども達が大好きになり、たんた（主人公の男の子）に届いた封筒から地図が出てくるところは特に気に入ったようです。本の表紙の裏に描かれているその地図を、子ども達が頭を寄せ合つて見入っている姿を度々見かけました。

それからしばらく経ったある日のこと、子ども達のところに、かえでのマークの描かれた大きな封筒が届きました



お日さまの光がキラキラひかっている！



かえでのマークのついた封筒が届いたよ

追分寮を出発して…大通りを渡って…林の小道を歩いて…



たー実は私達保育者が用意したのですー。開けてみると、キャンプの散歩道の地図が出てきました。子ども達は「わーい、たんたから地図が届いたぞ。たんたも軽井沢のこと知っていたのかなあ」と大興奮です。それから数日間、子ども達はその地図を眺めながら、キャンプの散歩に思いを馳せつつ出かける日を待ちました。こうして無事キャンプを迎え、二日目の朝、子ども達は、爽やかな林の小道をあつた地図に出かけた野原を目指して散歩に出かけていきました。

クリスマス

子どもも大人も

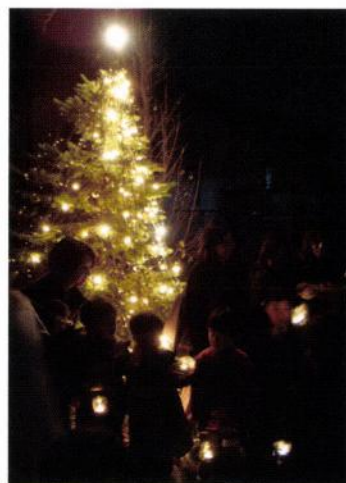
『待つ生活』『喜びを表現する生活』『分かち合う生活』を重ね、クリスマス礼拝を守ります。



庭でクララツツやリースを作り、アドヴェントを迎えます



毎日毎日練り広げられるページェントの中、色々な役になり羊飼いや博士の心を知ります



ことば・歌・楽器などで喜びを表します



クリスマス礼拝



お部屋を飾ったり、お母さまへの贈り物を作ったりと、喜びを分かち合うために子どもたちは手を動かします

東洋英和
幼稚園



避難訓練の様子

- 春の遠足 6月1日(火)
横浜四季の森公園に四・五歳児親子で出かけ、水遊びやオリエンテーリング、ゲームなどを楽しみ、親睦を深めました。
- 父母の会 6月12日(土)
児童文学作家、斎藤惇夫先生に「子ども・メディア・絵本」の講演をしていただきました。
- 避難訓練 6月18日(金)
地震発生を想定し、ヘルメットをかぶり安全な場所に避難する訓練をしました。
- いちようの木献金ミニセール (母の会主催) 6月25日(金)
五歳児キャンプ
- 7月7日(水)～9日(金)
親元を離れ、軽井沢分寮にて自然の中で友達や先生と過ごしました。
- 終業礼拝 7月14日(水)

大学付属
かえで
幼稚園



3歳児 たのしみ会 -親子でのダンスの時-

- 歯科健診 6月17日(木)
園医の元開富士雄先生による健診を受けました。
- 講演会 7月8日(木)
ケニアのコイノニア・アカデミーの市橋さら先生のお話を保護者と五歳児が聞きました。
- 3歳児たのしみ会・1学期終業式 7月16日(金)
- 4・5歳児1学期終業礼拝 7月16日(金)
- 4・5歳児夕涼み会 7月17日(土)
お店めぐりや花火、また『ピッチのぼうけん』というお話を楽しみました。
- 美しが丘夏祭り 7月25日(日)
美しが丘地域の夏祭りに参加し、フォークダンスやソーラン節を踊りました。

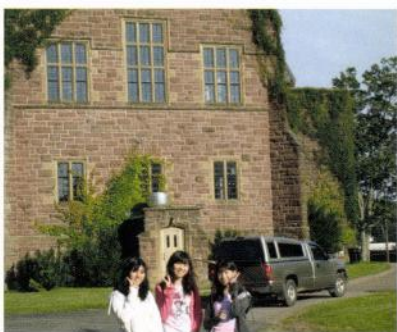
小学部



夏期学校 -追分寮の食堂の様子-

- 親子コース別集会 6月3日(木)
登下校が同じ方面の親子で集まり登下校の安全を確認しました。
- 鑑賞の日 6月8日(火)
民話語りの真夏竜さんをお招きして、昔から語り継がれている民話の素晴らしさを聞きました。
- 個人面談週 6月14日(月)～25日(金)
各担任と保護者で面談を行い、児童の様子を伝え合う有意義な時間を持ちました。
- 4年生社会科見学 6月22日(火)
新江東清掃工場と中央防波堤埋め立て処分場を見学。
- 6年生社会科見学 6月29日(火)
鎌倉の切通しや大仏を見学。
- 夏期学校(追分寮) 7月13日(火)～29日(木)

中高部



カナダ語学研修 -マウントアリソン大学にて-

- 高一カンファレンス 6月17日(木)～18日(金)
恵みシャレー軽井沢にて。岩田昌路牧師(狛江教会)をお招きしました。
- 中学部合唱コンクール 6月25日(金)
最優秀賞は中3～5組でした。
- 高等部球技会 6月25日(金)
高三・二組が総合優勝しました。
- カナダ語学研修 7月17日(土)～8月8日(日)
マウントアリソン大学で語学研修をしました。
- 中2夏期学校前・後期(野尻湖) 7月23日(金)～30日(金)
- 訓練キャンプ(野尻湖) 7月30日(金)～8月2日(月)
- キャンプ(野尻湖) 8月2日(月)～7日(土)
- 夏期修養会(追分寮) 8月2日(月)～4日(水)

大学
大学院



8月20日、中央館食堂の改装が終了。きれいになりました

- (大学)
● オープンキャンパス 6月6日(日)、20日(日)
7月24日(土)、25日(日)
8月21日(土)、22日(日)
ミニ授業、学食体験、キャンパスツアー、模擬面接、在学生による大学紹介等、多くの高校生・保護者に参加していただきました。特に保護者の方は、自発的に行動する学生スタッフの姿に好感をもたれたようでした。
- 前期授業終了 7月29日(木)
一五回という授業回数を確保するために、この時期まで授業を行いました。この後、試験期間。(大学院)
- 後期入学試験 7月3日(土)
人間科学研究科(臨床心理学領域を除く)、国際協力研究科
- 入試説明・相談会 7月24日(土) 両研究科

神への献身——日本YWCAの会長として



一九八五年 高等部卒業 俣野 尚子

またのなおこ
東洋英和女学院高等部卒業。一九八九年青山学院国際政治経済学部卒業。二〇〇九年一月に日本YWCA会長に就任、現在に至る。

聖書と音楽と

——英和での日々——

私は英和で、幼稚園から高校まで過ごさせていただきました。特に幼い頃から聖書が大好きであり、音楽が大好きであったので、中学高校では、五年間音楽部でのミュージカルに力をいれ、キャストを経験する一方、YWCAの活動も六年間続けました。

「愛」の「愛」の指揮をしたり、個人的にフルートを習っていたこともあり、ハンドベルと一緒にレコーディングをさせていたこともあり、感性で過ごす、ちょっと変わった、とにかく目立つ「規格外」存在であったのでしょうか？ そのような個性を育ててくださったのが英和なのだと思えます。感謝です。

苦しみを越えて
与えられた恵み

高校一年の時、カンファレンスの講師であった山北宣久牧師に導かれ、現在所属している日本基督教団聖ヶ丘教会で受洗しました。私に与えられたものは、イエス・キリストを信じるその信仰と、音楽です。母はクリスマスにはありませんが、人生を生きるうえで、「支え」となるものが必要であろうと、「音楽」と「キリスト教」を与えようとしたようです。この二つは現在の私を支えることを越え、「生き

る意味」を確かなものにしていきます。その音楽性を豊かにしてくださいましたのも英和です。小学部で歌のソロをしたり、高等部三年の時、卒業式の時に歌う口ツシーニ作曲の「信仰・希望・愛」の「愛」の指揮をしたり、

ることの意味を問うた年月がありました。その苦しみを経験する中で、弱さをもった私を主は強くしてください、という聖書の言葉に力を得ました。幸い健康を回復し、YWCAの活動の中で、思いを越える多くの恵みを与えられたことに感謝し、「四〇代で日本YWCAの会長」という決断をすることができました。私自身の神への献身だと思っています。

アジアから世界へ
女性が創る平和をめざして

現在、日本YWCA会長として、全国各地を訪ねる一方、若い人たちが平和のために、国際協力（特に東北アジアの人々との道を確かなものにする）に力をいれています。その取り組みは発展し、今年七月には中国YWCAから日本YWCA会

長・総幹事が招待され、今後の相互協力について協議しました。八月の「ひろしまを考える旅」には、韓国YWCAから一五名、中国YWCAから二名、日本に滞在する留学生を交え、一〇〇名をこえる若者たちの参加によって、「平和・共に生きること」の意味を考えるプログラムを実施しました。一〇月には韓国YWCAの招待で「YWCA日韓カンファレンス」を実施しました。更に二〇一一年七月、スイスで世界YWCA総会が「女性が創りだす安全な社会」というテーマで開催されます。世界から一〇〇〇人を超える女性たちが集まり、日本からはワークショップなどを行うことを計画しています。

神様の平和の道具として用いていたように祈りながら、YWCAの働きをなしていこうと思っています。



南京を考える旅—2007

「わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。」

ヨシユア記一章九節



ヨシユアツリー

「草食男子」という表現がある今、「雄々しく」とは肉食系を意識させるだろうか。中学部3年の聖書の時間に出会った御言葉は、私を受洗へと導く信仰の原点、命の言葉となった。

ある企業家の番組のナレーションで「モーセのように力強く道を切り拓く」と聞いた。教会に行ったことのない人でも知っているモーセ。その後を継いで神の民を導くことになった若いヨシユアにとって、神の使命は余りにも大きかっただろう。

皆、思いがけない責任を負うことがある。しかし独りではない。「主は共にいる」——これが力の源となる。

「どこに行っても」——信仰者は神の歩かない道を歩くことはない。どこも神の御手の中、キリストが伴う。恐れることはない。強く雄々しく喜んで主の道を歩み続けたいと願う。

日本基督教団ベテル教会牧師
(一九八七年 高等部卒業)

網中 彰子

設立から二二〇年以上もの歴史！ ピアノ科を訪ねました

東洋英和中学部の学校説明会にご参加された方にとって、とても不思議な存在が「ピアノ科」だそうです。ピアノ科は学校で本格的なピアノレッスンが受けられる制度なのですが、「学校でピアノのお稽古？」と皆さん驚かれるようです。ピアノ科は学院創立わずか二年後の一八八六年、宗教教育の一環として奏楽の奉仕者を育てるために設立され、今に至っています。

中高部校舎一階の奥にピアノ科室があります。ドアを開けると防音になっている個室が七つ、大きな部屋にはグランドピアノもあり、ソルフエージュのグループレッスンも行います。ピアノ科に所属しているのは幼稚園生から高校生まで現在二二四名。教える先生方は一三名で、六段階のグレードテストがあり、毎年必ず全員が演奏する発表会があるなど、しっかりしたカリキュラムに沿ってレッスンが行われています。

昼休みにお邪魔すると、ピアノレッスンの高校三年生がやって来ました。彼女は音楽大



この入口から奥にピアノ科のお教室が広がっています

小学生と中学生の下校が重なる時間が一番レッスンの混む時間です。この廊下で自分の順番を待ちます



教室の様子。大きな教室にはグランドピアノがありクラスレッスンもできます



控室でのピアノ科の先生方。現在13名の先生方がいらっしゃいます



学へ行くわけではないけれども、その演奏は堂々たるもの。ピアノ科主任の丸山もと子先生いわく「英和生は、音楽性に優れた生徒が多いと思います。普段はのんびりしているようでも本番には強いようです」とのこと。宣教師の先生方が学院創設時にいち早く取り入れ、その充実に力を注いできた「音楽教育」。英和生気質が培われる源泉がそこにあるのかもしれない。

東洋英和楓の会の第一回講演会が開催されました

さる6月19日、250名の方々のご参加のもと、楓の会顧問 橋本五郎氏（読売新聞特別編集委員）の講演会が開催されました。「真の教育とはなにか」と題して行われた講演では、橋本先生の恩師の方々やお母様について、ときに楽しくときに感動的にお話しくださいました。講演終了後も、出席された方からお礼と感謝のお言葉を多数お寄せいただきました。

橋本五郎氏講演会「真の教育とはなにか」(要旨)

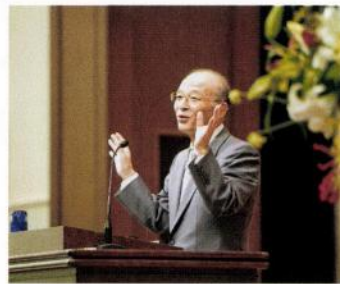
本日は、これまでの人生を振り返り、自分自身の「恩師」と呼び得る人について、率直にお話をさせて頂くことにします。私の一人目の恩師、秋田高校時代の鈴木健次郎校長先生は、自分達生徒に対し「『汝、何の為に其処に在り哉』、そう問われたらいつでもどこでもはっきり答えられるような人間になってほしい」と常々話されました。このことを今でも鮮明に覚えています。教育の力は人間にどれほど大きな影響を与えるものなのでしょう。教育の制度論ばかりが取り上げられますが、今大切なことは、もっと先生を大事にすることではないかと私は思っています。

二人目の恩師は胃がんの手術をしてくれた主治医の先生です。バリウムの定期検診はずっと受けていましたが、見つかりませんでした。手術の前に家族に遺書も書きました。退院する時、先生は「貴方はもう以前の貴方ではありません。生まれ変わったと思ってください。一日一日を大切にしてください。そして無事1年を過ぎたら1年生の修了証を差し上げましょう。2年過ぎたら2年生の修了証を差し上げます」そう言われて9年余が経ちました。私にとっては色々な意味で生きる希望を、そして激励を頂いた先生です。

そして三人目は私の母です。自分のことは何一つ考えず、子ども達のこと、地域のことだけを考えた一生でした。私は、お袋が布団で寝ている姿を見たことがありません。釜で炊いたご飯で毎朝子ども6人と親父の弁当を作り、夜は晩ご飯の用意をしてから

保険の外交員をやっていました。ずっと秋田で一人暮らしをしていたそのお袋が倒れたのは16年前です。お袋はよく「平日には死ねない。子ども達が東京から来ると休む日が多くなるから」と言っていました。実際亡くなったのは日曜日。私は母を家に連れて帰って一緒に布団に入りながら「母さん、よくやったね。最後の最後まで自分の言うとおりに実行したじゃない」そう言いました。私はお袋から大学の卒業の時に三つのことを言われました。「何事にも手を抜いてはならない。常に全力で当たれ」「傲慢になってはいけない。常に謙虚であれ」「どんな人でも嫌いになることはない。その人の中に自分よりも優れているところを見つけよ」と。私は一日として忘れたことはありません。どこにいても、母に見られている、恥ずかしいことは絶対できない、そう思っています。

私は今、政治を主に担当しています。政治家にとっての心構え、戒めとは何か。私は二つあると思います。一つは「ノブレス・オブリージュ、高い身分の人にはとりわけ重い責任がある」。二つ目は「私を捨てて公のために尽くす」ということです。私には今の政治にそれが見えない。政治で一番大切なのは何か。やっぱり心だ、行き着くところはそこだと私は思うのです。



ミス・カートメルのトランクが常設展示となりました

楓園61号でもご紹介した学院創設者ミス・カートメルのトランクが、10月1日より六本木の本部・大学院棟1階史料展示コーナーにお目見えしました。トランクとともにカナダのサザーランド家から寄贈されたミス・カートメルの日本みやげである「ペン皿」「日本髪用の櫛」も一緒に展示されています。お近くへお越しの際には是非ご覧ください。



訃報 一心より哀悼の意を表します—

吉田 昭氏	元法人本部事務長	2010年3月12日
木村 芳子氏	元小学部教諭	2010年3月14日
佐治 多慶子氏	元中学部・短期大学職員	2010年5月13日
五味 秀夫氏	元中高部教諭	2010年7月14日
— * —		
長岡 輝子氏	1925年卒	2010年10月18日



史料室レター ①

史料室の利用案内ができました

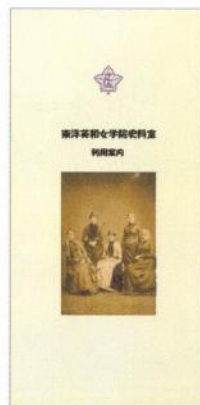
六本木の本部・大学院棟地下2階の奥深く、隔離された感のある史料室より、今号からささやかな発信をしていくことになりました。それは、東洋英和の個性を考え未来を形づくっていく重要な手がかりになる史料を史料室はたくさん抱えていながら、未だに眠ったような状態だからです。整理も急がれますが、もっと史料が活用されるためには、まず皆様に史料室の存在を認めていただくことから始めたいと思います。

史料室では、東洋英和の歴史を物語る史料のほか、宣教師の方々の働きを示す史料、卒業生の著作などを集め保管しています。

卒業生や旧教職員の方々へのお願いです。たとえば押入れの中から、かつて英和で過ごした時代の写真や記録などが出てきて整理しようと思われた時は、どうぞ史料室にご一報ください。

ちょうど「史料室利用案内」ができたばかりです。ここでは表紙のご紹介だけになりますが、内容はどうぞ学院ホームページのトピックスをご覧ください。

●お問い合わせ先：TEL03-3583-3166 法人事務局史料室





東洋英和女学院大学

2011年度 大学入学試験のご案内

【スカラシップ特別入試】 2010年12月19日(日)

- 英語・国語・地理歴史(日本史Bもしくは世界史B)の3教科で受験可能。
- 試験成績が優秀な人は、スカラシップ生として2年間授業料など(208万円)が免除。
この特典は2年次から3年次、3年次から4年次進級時に見直しがなされ、入学後の学業成績が優秀な場合は4年次まで延長可能。(4年間で416万円免除)
- スカラシップ生以外にも本学一般入試の合格水準を満たしている場合は、一般入試免除で合格となります。
- この入試は高校での成績や現役・浪人にかかわらず、誰でも出願でき、専願である必要はありません。

【一般入学試験】 2011年1月31日(月)

英語を必須として3教科型または2教科型から選択して受験。2学科の併願も可能。試験会場は横浜(本学)

【一般入学試験(後期)] 2011年2月19日(土)

英語・国語(現代文のみ)の2教科で受験。試験会場は横浜会場(本学)・東京会場(六本木校地)

【大学入試センター試験利用選抜】 個別試験無し・2011年1月15日(土) 16日(日)

3教科型または2教科型から選択して受験。全学科で併願可能。

●その他の入試●

【公募制推薦入学試験】(2011年度入試は2010年10月24日に終了しております)

- A) 自己推薦型(高校在学中の活動をアピール/留学経験(1年以上))
 - B) ミッション型(教会教職者が推薦する者)
 - C) スポーツ推薦型(テニスまたはチアリーディング)
- A)、B)は書類審査・面接・小論文による総合判定。C)は書類審査と面接のみ。

【同窓生子女枠特別推薦入学試験】(2011年度入試は2010年10月24日に終了しております)

東洋英和女学院の大学、旧短期大学、中学部・高等部卒業生の子、孫、姉妹、もしくは在学生の姉妹で高校第1学年から第3学年第1学期(または前期)までの学業成績が全体の評定平均3.4以上。専願での出願のみとし、選抜方法は書類審査と面接による判定。

自分を見がける4年間

- Four years. The perfect amount of time to realize your true potential. -

人間科学部 人間科学科

総合人間学コース/臨床心理・社会心理コース

人間科学部 保育子ども学科

保育子どもコース

国際社会学部 国際社会学科

国際社会コース/メディアコース

国際社会学部 国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーションコース



～ 資料請求・お問合せはお気軽に

入試広報課までご連絡ください～

- 〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町32
- TEL 045-922-5512 (直通)
- URL <http://www.toyoeiwa.ac.jp>
- E-mail nyushi@toyoeiwa.ac.jp

生涯学習センターのご案内

大学の生涯学習センターは、1998年の発足以来、文芸・教養、語学、音楽・アート、スポーツ・フィットネスなど多彩な講座を、横浜・六本木両キャンパスにおいて開講しております。

これまでに学院の卒業生、在学生のご家族ならびに近隣地域の方々など、延べ22,000人以上の方にご受講いただきました。

緑豊かな横浜キャンパスではテニスやハワイアンフラ、ゴルフ、水中ウォーキング、アクアビクスなど、充実したスポーツ・フィットネス施設を利用した講座を多く開講しております。

また、学部の一部の講義を公開講座として一般公開しており、現役学生とともに「精神保健学」「死生学」「移民・難民問題」「紛争解決ワークショップ」など、人間科学部・国際社会学部の幅広い学びに触れることもできます。

一方、六本木キャンパスでは、キリスト教関連講座はもとより、英米小説の読書会、児童文学の翻訳や時事英文の読解などから、楔形文字を使用する古代言語(アッカド語など)、ラテン語、フランス語やドイツ語まで様々なアカデミックな語学・文芸・教養講座を多く開講しているのが特徴です。

今後も講座を通して地域貢献を推進するとともに、卒業生、在学生のご家族など学院関係者の皆様には受講料の割引制度も用意しておりますので、お知り合いや旧友と机を並べて新たな学びや趣味を始めるための助力となれば幸いです。

冬学期講座のご案内 11/24(水) 申込受付開始

生涯学習センターパンフレット巻末の所定振込用紙に必要事項をご記入の上、郵便局より振込にてお申し込みください。

分野	主な講座
文芸・教養	言語と文化、英和読書会、キリスト教の本質を問う、ジェイン・オースティン・クラブ、英米小説読書会、恋と季節—あるアメリカ小説の場合—
語学	英語の翻訳、時事英文の読解
音楽・アート	みんなで楽しむはじめてのピアノ、フラワーアレンジ、はじめてのティディベアと犬猫ティディ
スポーツ・フィットネス	テニス、バレエダンス、ヨガ、ハワイアンフラ、気功、太極拳、ゴルフ、スイミング、水中ウォーキング、アクアビクス



ジェイン・オースティン・クラブ



みんなで楽しむはじめてのピアノ



アクアビクス・エクササイズ

お問い合わせ・資料請求

東洋英和女学院大学 生涯学習センター

TEL: 045-922-9707 E-mail: shougaictr@toyoeiwa.ac.jp

英和の植物通信

～目を近づければ楽しさ無限～ No.22

絵・文・写真：中池 敏之
(大学非常勤講師：博物館概論等担当)



カンガレイ (横浜キャンパス)

カンガレイ (寒枯藁)

夏にはシャンデリアのような花(花の集まり)を咲かせ、冬枯れが始まった今、茎は池の中で緑を保ち、茎の先には茶褐色で円錐形の塊が付いている。

花や実は1cm足らずの大きさで、注意しないと気が付かない。しかし、どんな小さな花や実にも世界でただ一つの固有な姿がある。花や実の存在に気が付けば、それを通して自然の営みや形の多様性を知ることができて、植物に接することが一層楽しくなる。かつての大人や子どもは、カンガレイやその仲間の草で、ごごを作ったり、遊びをしていたため、もちろん、この草の存在にちゃんと気が付いていた。



カンガレイ
池の中で光輝いている。



コミカンソウ
タネはケーキの形。



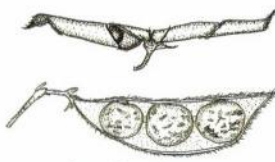
コナラ
小枝の中心に星がいます。



ナキリスゲ
みは二本のひげで宇宙遊泳。



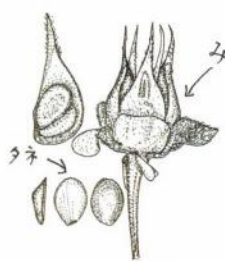
アセビ
あめ色に光輝くタネはさながらキャンデー。



マブマブ
さやを換えてタネをばさばす。



カナムグラ
タネの中のグルグルは何のため。



ナツツバキ
みはさかさにして見ると宇宙人。

展示のご案内

学院史料展示コーナー

「東洋永和」における勤労働員

学院史料展示コーナーでは、12月より「史料室だよりNo.75」の特集「東洋永和」における勤労働員に関する展示を予定しております。校名も「永和」に変わった戦時下の学校で、礼拝も学業もままならず生徒達はさまざまな仕事に従事していました。遺された史料から当時をたどります。是非ご覧ください。

- 展示期間：2010年12月初旬より
- 展示場所：六本木校地
本部・大学院棟1階ロビー
- 見学可能な時間：日曜、祝日以外の本部・大学院棟開館時間内
- お問い合わせ先：〒106-8507
港区六本木5-14-40
TEL 03-3583-3166 法人事務局 史料室

東洋英和女学院学院報 楓園 第62号

発行日：2010年11月16日
編集：広報委員会
発行：学校法人 東洋英和女学院
東京都港区六本木5-14-40
TEL 03-3583-3325
メールアドレス
koho@toyoeiwa.ac.jp
ホームページアドレス
http://www.toyoeiwa.ac.jp

- 東洋英和女学院では学院各部署におきまして、以下の日程でクリスマス礼拝・関連行事を行います。(青字の行事は一般公開です)
- 東洋英和幼稚園**
- ★12月8日(水) 母の会・つばみ会 アドヴェント礼拝・祝会
説教者 吾妻國年 副院長
 - ★12月14日(火) 幼稚園(母子)アドヴェント礼拝
- 小学部**
- ★11月29日(月) アドヴェントを迎える会
 - ★12月2日(木) 母の会クリスマス礼拝
 - ★12月11日(土) むかえようクリスマス
14時より小学部講堂にて
(室内履きを)用意ください。四歳未満のお子様の入場や途中での入退場はご遠慮ください)
 - ★12月17日(金) 小学部クリスマス礼拝
- 中高部**
- ★12月10日(金) 母の会クリスマス礼拝
説教者 吉岡康子 牧師(青山学院女子短期大学 宗教主任 日本基督教団吉祥寺教会)
 - ★12月11日(土) クリスマス音楽会
13時、15時より 新マーガレット・クレイグ記念講堂にて(9月、11月の学校説明会でアンケートを提出された方に案内状をお送りします)
 - ★12月20日(月) 中学部クリスマス礼拝
高等部クリスマス礼拝
説教者(高等部)小林信人 牧師
(日本基督教団船橋教会)
- 大学**
- ★11月19日(金) チャペルコンサート
演奏 徳岡めぐみ(オルガン)
(東京藝術大学非常勤講師ほか)
 - ★12月1日(水) アドヴェント夕礼拝
18時10分開演
司式・説教 三上章 大学宗教主任
 - ★12月20日(月) クリスマス礼拝
18時10分開演
説教 棚村恵子(東京女子大学准教授)
司式 吉岡良昌 大学宗教主任
- 大学付属かえで幼稚園**
(横浜校地礼拝堂にて。すべて入場無料、予約不要です)
- ★12月15日(水) 三歳児クリスマス礼拝
9時30分より
 - ★12月16日(木)・17日(金) 四・五歳児クリスマス礼拝 16時45分より
 - ★12月18日(土) 小学生・中学生クリスマス礼拝 10時30分より
- 全学院**
- ★12月3日(金) クリスマス礼拝(全学院教職員対象)
- 同窓会**
- ★12月4日(土) クリスマス礼拝
13時30分より 六本木校地中高部
新マーガレット・クレイグ記念講堂
説教者 佐藤順子 牧師
(東洋英和女学院 前高等部部長)
- それぞれ詳細につきましては、各部におたずねください。

クリスマス行事のお知らせ